

<目指す学校像>

「人と人との交流が実感できる温かな学校」

所沢市立狭山ヶ丘中学校「学校だより」 — 令和6年7月 —

URL : <https://tokorozawa-sayamagaoka.edumap.jp/>



狭中だより

[学校教育目標]

『自立と共生』

校長 石原 健

修学旅行に行ってきました！

7月4・5・6日の2泊3日で修学旅行に行ってきました。ここ数年の京都・奈良は、コロナ禍が明けたという事もあり、外国人の観光客で非常に賑わっており、今回も修学旅行生、外国人観光客を含めかなりの人出でした。さて、今回の修学旅行は下記のスローガン、目的で実施されました。

<旅行の目的>

- ・自らの役割を果たすことはもちろん、役割を超えて自分がすべきことを率先して行動する。
- ・社会に出る者として自分たちで考え、判断し責任ある行動をする。
- ・社会のルールやマナーを踏まえて行動する。

<学年スローガン>

“朱”～一枚岩の絆～

中学校は修学旅行というものに対して、今までの様々な「学び」の集大成として捉えています。「学び」というのは、教科の授業だけでなく、遠足や林間学校の校外行事含め部活動や委員会活動など今までこの狭山ヶ丘中学校で学んできた全てを指します。「他者との協力」「ルールやマナーを守る規範意識」「先生がそばにいない時も正しい行動がとれる判断力」「自分の役割をきちんと果たす責任感」「社会の一人として行動するという社会性」等々…人として中学生として「どこに出しても恥ずかしくない者」に成長して欲しいという我々の思いがこの修学旅行には含まれています。勿論、中学校生活での最高の思い出の一つとなって欲しいという思いもあることは当然です。そんな修学旅行ですが、3年生たちは一枚岩のごとく強い絆で協力し合い、目的達成のためにみんなが頑張っていました。それも嫌々やらされているのではなく、自分たちから楽しみながらしかも生き生きと活動していました。そんな姿を見ると中学校での学びの大きさを実感しました。

皆さんもご存じの通り今回の修学旅行は、新幹線の遅延という不測の事態に見舞われました。保護者の方々におかれましては、大変ご心配をおかけしました。多くの生徒が無事に帰着できたのが本当に良かったと実感しています。京都駅構内とは言えエアコンもない所で4時間あまり待っていた訳ですが、そこでの3年生の姿は立派でした。自分ではどうしようもないこの状況に対し、怒り、腹を立てる訳でもなく、友達との会話を楽しんでいたりカードゲームに興じていたり、たくましさを感じたと同時にやはり友達存在って大きいなあ…と改めて感じさせてくれました。まさに「今までの様々な「学び」の集大成」を感じた時間でした。今後もそんな良好な友人関係をさらに強いものにしていくと願っています。



令和7年度以降の林間学校について

今年度まで2年生で実施していた林間学校ですが、令和7年度以降は実施しないことといたします。その理由として、昨今の物価上昇に伴い、林間学校や修学旅行の費用が年々増加している状況が見られ、学校としては3年間トータルで見たご家庭の負担を極力減らしていく必要があるとし、このような対応をとることにしました。よって令和7年度の2年生（現1年生）以降は、1泊2日の林間学校を日帰りの校外学習（班別自由行動等）に変更し、実施することにいたします。校外学習の行先、時期等の詳細については、当該学年の生徒、保護者には追ってご連絡申し上げます。

本校では林間学校では、「集団の中の役割を理解し、進んで協力できる」という資質を生徒たちに高めさせるために実施していましたが、日帰りの校外学習でもその様な資質は、十分に身に付けさせることができると考えての対応となります。ご理解、ご協力の程、よろしくお願いいたします。

